

阿賀野川
aganogawa E-toko dayori

えとこだより



「岩越鉄道沿岸風景 小松の逆帆」(場所:阿賀野市小松/明治後期〜大正期/提供:田辺修一郎氏)

もくじ

公害問題の歴史的な節目から、未来を紡ぎ出すために

前号の巻頭言でもお伝えしたとおり、「阿賀野川えとこだプロジェクト」(FM事業)では、今年度から「阿賀野川の上流域から下流域までをどうつないでいくか」というテーマのもと、今後の集大成を意識した取組を積極的に展開しています。

今号の特集では毎年恒例のパネル巡回展の開催をご案内していますが、これまでのパネル作品で各地域の歴史の「コマ」として描かれてきた「新潟水俣病」という題材に、今回6回目の巡回展にして初めて真正面から向き合いました。そして、阿賀野川流域全体を舞台に、大河を中心に勃興した近代産業を背景として、その光と影の顛末を描き出した作品となっています。

阿賀野川流域は来年5月末に新潟水俣病の公式確認から50年を迎え、先月にはその際の取組を話し合う第1回目的の会合(新潟水俣病公式確認50年事業実行委員会)も開催されました。こうした公害問題の歴史的な節目が、できれば阿賀野川流域の未来を紡ぎ出す一つの契機となるべく、これまでと同様に過去の光と影にも真剣に向き合って参りたいと考えています。

- 特集1 平成26年度パネル巡回展「阿賀野川と銅山ダムそして高度成長の果てに」併設展示「絵葉書と昔の写真展」セビエ色の阿賀野川—— 4
- 特集2 新しい公害学習プログラム始動！——「正解のない問い」を考えるワークショップ開催 5
- 特集3 阿賀野川えとこだ！流域通信—— 6
- ・好評「特集1 阿賀野川ものがたり」とは？
- ・阿賀野川丸ごと体感プログラムのご案内！

新潟水俣病公式確認 50 年事業実行委員会(第 1 回)が 10 月 14 日に開催されました



新潟水俣病は昭和 40 年 5 月 31 日に公式確認され、同年 6 月 12 日に公表されました。それから来年で 50 年を迎えるに当たり、その歴史と教訓を次世代に伝えていくための事業等を検討する実行委員会が開催され、座長を務める知事が「未来に向かって歩みを進められるような会議にしたい」などと挨拶しました。



映画「阿賀に生きる」阿賀野川遡上計画のお知らせ

新潟水俣病問題が続く阿賀野川流域に暮らす人々を、3 年かけて記録したエンターテインメントドキュメンタリー映画「阿賀に生きる」。この映画の上映会を阿賀野川沿岸各地で順次開催しています。

日時 ● 12 月 13 日(土) 14 時～
場所 ● 咲花温泉 柳水園(五泉市咲花温泉 7241)
※参加されたい方はお問い合わせ下さい(平岩携帯 080-3142-1684)

上映会の会場準備や上映会の開催を手伝ってくれるスタッフを募集しています！
問 080-3142-1684(平岩)からメールaganogawa210@gmail.comまで

ブログ: <http://aganogawa210.blog.fc2.com/>



「阿賀野川えとこだプロジェクト」とは？

正式には「阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業」(通称FM事業)と言い、阿賀野川流域の各地域が今も続く新潟水俣病と向き合い、それを乗り越えるような「人と人の絆」や「人と自然の関係」を紡ぎ直すため、流域の住民・行政・民間団体が手を取り合い、「新しい地域づくり」を目指して始まったプロジェクトです。

阿賀野川えとこだ！憲章(事業理念)

私たちは新潟水俣病に学び教訓を伝承することで、負の遺産から新たな価値を創造していくことを目指します。阿賀野川流域の宝物を広く内外に発信しながら、公害により失われた人と人、人と自然、人と社会の絆をつむぎ直していきます。地域を愛する人が地域の未来をつくる「流域自治」の確立へ向けて行動します。

(阿賀野川流域地域フィールドミュージアム事業推進委員会)

編集後記

第14号はいかがでしたでしょうか？
前号でリニューアルオープンを告知したサイト「阿賀野川えとこだ！流域通信」が、無事8月前半に開設されて早3か月が過ぎました。なんと嬉しいことに、リニューアル前と比べてアクセス数は3倍以上に達しており、ご覧いただいている皆さま方には大変感謝申し上げます。今後は様々な特集や連載記事などにもますます力を入れて参りますので、今後ともよろしくお願いいたします。

また、パネル巡回展に併設されたもう一つの巡回展「絵葉書と昔の写真展」もおススメです！昔懐かしい風景や暮らしを振り返ることがができますので、こちらもぜひお楽しみに！

阿賀野川えとこだより 第 14 号

発行:新潟県(※環境省補助事業) 発行日:2014 年 11 月 10 日
企画編集:一般社団法人あがのがわ環境学舎(〒959-2221 阿賀野市保田 3866-1)

TEL.&FAX.0250-68-5424
aganogawa@niigata.email.ne.jp

阿賀野川えとこだ！流域通信

<http://www.aganogawa.info/>

アクセス増加中！



平成26年度パネル巡回展

阿賀野川と銅山、ダム、そして 高度成長の果てに

～大河と近代産業が織りなした光と影～

奥が草倉銅山の角神製錬所、手前は阿賀野川の川湊
(明治後期/柏崎市立図書館蔵/小竹エンタテインメント)

「新潟県阿賀野川東信電気鹿瀬発電所堰堤」
(昭和初期/田辺修一郎氏所蔵)

昭和電工株鹿瀬工場と社宅、そして阿賀野川
(鹿瀬工場タイムス昭和29年新年号44号1面)

展示期間	展示施設	展示時間・備考
11/15(土)～11/30(日)	狐の嫁入り屋敷	9:00～17:00 毎週木曜休館
12/3(水)～12/16(火)	阿賀野市立図書館	9:30～16:30 毎週月曜休館
12/19(金)～1/5(月)	新潟市東区役所 南口エントランスホール	8:30～17:30
1/7(水)～1/22(木)	江南区文化会館内 江南区郷土資料館	10:00～19:00 毎週金曜休館/日・祝10時～17時/最終日は16時まで
1/28(水)～2/10(火)	五泉市立図書館	9:30～18:30 毎週月曜・1/30(金)休館 土曜・日曜 9:30～17:00
2/14(土)～2/27(金)	新潟市秋葉区文化会館	9:00～22:00 2/23(月)休館 最終日は17:00まで
3/4(水)～3/15(日)	水の駅「ビュー福島潟」	9:00～17:00 3/9(月)休館 入館は16:30まで
3/19(木)～4/8(水)	NEXT21 アトリウム	8:00～23:00

開催期間

2014. **11/15** ～ 2015. **4/8**

開催スケジュール(※左表参照)

主催 新潟県

共催 新潟市、五泉市、阿賀野市、阿賀町

お問合せ&企画



一般社団法人
あがのがわ環境学舎

TEL&FAX 0250-68-5424



絵葉書と

パネル巡回展に併設!

昔の写真展

阿賀野川流域の
昔懐かしい写真
がいっぱい!

詳細は次頁をご覧ください!

現在

今後に向けた様々な取組を展開!



50年間

問題長期化



(提供:新潟日報社/平成4年3月31日)

S40年

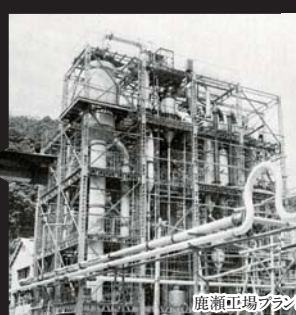
公害発生



(読売新聞・昭和40年6月13日)

昭和期

昭和電工



(鹿瀬工場タイムス昭和34年6月1日第109号)

大正期

鹿瀬ダム



(昭和初期/沖田信悦氏所蔵)

明治期

草倉銅山



(明治後期/長谷川一氏所蔵)

パネルの流れを紹介



行政・企業の責任追及や被害者の苦しみを主題とした公害学習は、90年代以降、社会の関心が地球環境問題に移る中で急速に退潮し現在に至ります。「あがのがわ環境学習ツアー」では、時代の変化に合わせた新しい公害学習のあり方を模索しています。

「正解のない問い」を考える

そこで、今年度から思い切った手法を転換すべく、三条市在住のワークショップデザイナー・石本貴之さんと協働して、ワークショップを導入した現地見学プログラムを新たに開発し、中央大学法学部中澤ゼミ&小宮ゼミから協力を得て、今夏初めて実施しました。

「あがのがわ環境学習ツアー」では、専門ガイドが一方通行で座学する講義スタイルが中心でした。これは小・中学生向けとしては好評でしたが、複雑な経緯を理解した上で様々な思考を深める必要のある大学生には不評で、思ったような教育効果を上げられてこなかったのが実情です。

ワークショップを導入

「あがのがわ環境学習ツアー」では以前から上記に掲げた従来の公害学習とは異なり、事件や事故を起こした「当事者の立場」で考える学習スタイルを標榜しています。それは悲惨な公害を二度と繰り返さないためには、「どうすれば防げたか、なぜ当時は防げなかったか」について真剣に考えを巡らした上で、なるべく現実裏打ちされた解決の糸口を掴んでもらうことが重要だと考えるからです。



石本貴之さん(三条市)

「正解のない問い」を考える

当日のプログラムでは、従来どおり新潟水俣病の発生経緯を現地見学を通じて学んだ後、本格的なワークショップへと移行します。ここでは、公害を二度と繰り返さないために、①どのような教訓が社会に必要なか、②当時の関係者が行動に移せなかったのはなぜか、③自分が企業の当事者だった場合にどう考えて行動できるか…など「正解のない問い」について参加者が思考を深める機会が提供され、これまでの公害学習の中で最も活発な反応が得られました。

企業研修プログラムにも

こうした切り口の公害学習プログラムは、企業のリスク管理が問われがちな現代社会では特に意味があると考えられ、将来的には企業や行政職員向けの研修プログラムにも応用できるよう、一層の進化(深化)に努めたいと考えています。

特集
2

新しい公害学習を始めよう!

平成26年度パネル巡回展「阿賀野川と銅山、ダム、そして高度成長の果てに」併設企画展示

絵葉書と 昔の写真展 ～セピア色の阿賀野川

明治から大正、昭和にかけての阿賀野川流域の様々な風物や暮らしが収められた貴重な写真展示を、今回のパネル巡回展に併設して開催します!



高森薬師老樹(明治～昭和初期)



水原狐湖畔の桜(明治～昭和)



新津町小阿賀野川開門(大正～昭和)

● 絵葉書写真やカメラ愛好家による貴重な写真の数々

かつて明治から大正、昭和戦前にかけて、日本全国の名所・旧跡や記念日の光景などが、当時はまだ庶民には珍しかったカメラで撮影され、絵葉書写真として流通していました。またその後、各地にいたセミプロの愛好家たちが、昭和20～30年代の風物や生活の様子を写真に収めていきます。国民生活にカメラが普及しカラー写真も登場し始める以前のこうした貴重な写真群を、FM事業では多くの皆さんのお力をお借りして収集して参りましたので、今回初めてその巡回展示を開催いたします。

★数百点の絵葉書を提供

田辺さんは、全国有数の絵葉書収集家で、24万枚以上を所有されています。以前のえ〜とこだよりに掲載された資料収集のお願いをご覧になって、数百点に及ぶ絵葉書データの提供をお申し出いただきました。



田辺修一郎さん(三条市)

※本ページの絵葉書写真は、すべて田辺さんから提供いただいたものです。



(津川名勝)小花地の絶景(大正～昭和)

本写真展の開催期間・場所等は、前頁の平成26年度パネル巡回展のスケジュールを参照。